

Fastly の CDN の採用で キャッシュヒット率 97% を実現し 画像を最適化することで転送量を 40% 削減

インターネット黎明期の 1996 年より、「日本の食文化を守り育てる」という創業の想いに基づいて、日本最大級の飲食店情報サイト「ぐるなび」の運営をはじめ、さまざまな飲食店向けのサービスを展開する株式会社ぐるなび（以下、ぐるなび）。アフターコロナを見据え、今後より一層飲食店の利用者が増え、トラフィックが増大することが予想されることから、運用コスト削減、画像変換のためのコンピュータコスト削減、画像変換処理の運用負荷の低減という 3 つの課題を解消することを目的に、Fastly のクラウド CDN サービスを採用した。

コストを削減しつつ、高トラフィックへの対応、高キャッシュヒット率を実現できる CDN の導入が急務に

ぐるなびは、全国 50 万店の飲食店情報を掲載し、検索 / 予約ができる日本最大級の飲食店情報ポータルサイトである。飲食店向けにはモバイルオーダーサービスの「ぐるなびFineOrder」や予約管理サービスの「ぐるなび台帳」など、販促支援はもちろん、商品開発や業務改善に至るまでのトータルサポートを提供。「飲食店経営サポート企業」として、さらなる進化を目指し、サービスの拡充を図っている。

ぐるなびは、会員数 2,399 万人¹、月間利用者数 3,800 万人²が利用するウェブサービスであり、画像や動画が多く含まれる飲食店情報を常に最新の状態で高いレスポンスで利用者に提供することが必要だった。そこでこれまでは他社の CDN とサーバーレス環境により、圧縮、リサイズなどの画像変換、動画のクロップなどの仕組みを実装。CDN は複数ベンダーの製品を数年単位で入れ替え、入れ替えのタイミングでその時々を抱えていた課題を解決していた。

CTO の岩本俊明氏は、「直近に利用していた CDN の最大の課題は、コストの増大でした。メニュー画像など膨大な量の画像を配信していたため、大量のトラフィックによるネットワークコスト、リアルタイムに変換を実施するコンピュータコスト、独自に構築している変換処理の実装に関する運用やバージョンアップに関する運用コストが増大するという 3 つの大きな課題がありました。新型コロナウイルス感染症も収束し、飲食店の利用者が増えることも予想されるので、コストを削減しながら高いトラフィックに対応できる CDN の採用が急務でした」と話す。

ぐるなびでは、2022 年 4 月より、利用者の満足度が高く、パフォーマンスの優れたウェブサイトを作りたいと考え、いくつかの CDN を比較検討した結果、Fastly の採用を決定する。採用を決めた理由を岩本氏は、「Fastly は、CDN 内の複雑な処理をフルマネージドで提供されるサービスなので、設定をデプロイする人員が必要なだけで、バージョンアップなども不要になり、運用コストの大幅な削減が期待できることが採用を決めた理由でした」と話している。



社名:株式会社ぐるなび

1989 年 10 月に株式会社交通アドとして設立し、交通広告代理店業務を開始。1996 年 6 月に株式会社エヌケービーの一事業部として飲食店検索サイト「ぐるなび」をインターネット上に開設。2000 年 2 月に株式会社エヌケービーより「ぐるなび」事業の譲渡を受け、株式会社ぐるなび発足。「食でつなぐ。人を満たす。」というパーパス（存在意義）を掲げ、PC / スマートフォン向けの飲食店情報提供サービス、飲食店の経営に関わる各種業務支援サービス、その他関連サービスを事業として展開。飲食店の持続的成長と外食産業を中心とした食産業の活性化に貢献することを目指している。

住所:〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-1-2

日比谷三井タワー 11F

URL: <https://corporate.gnavi.co.jp/>



1 2023年4月1日時点
2 2022年12月時点

動的サイトのキャッシュにより 最大で 20 倍高速なページ表示を実現

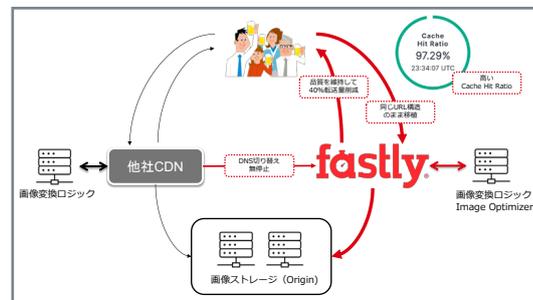
Fastly の導入前は画像変換ロジックを独自に開発し、運用していたので、開発から運用、維持管理のための工数とコストがかかるという課題があった。Fastly 導入後は、画像はすべてクラウドストレージに格納され、画質を維持したまま Fastly で容量の圧縮やフォーマット変更などの動的な処理をしているシンプルな構成になっている。Fastly は、まずは 2022 年 6 月に動的サイトのキャッシュ用途で導入され、続いて 9 月にイメージオプティマイザーが導入されている。

動的サイトのキャッシュについて岩本氏は、次のように話す。「飲食店のページは動的なサイトで、利用者のアクセスや情報が更新されたときにリアルタイムに情報が変更される仕組みになっています。そのバックエンドには非常に多くの処理が必要なため、ページの表示速度が低下してしまいます。また、スパイク時に高負荷に陥りやすいという課題もありました。そして、リアルタイムに更新される情報をキャッシュするには高速なパーシステンスが不可欠です。これらの課題を解決できる CDN を検討した結果、Fastly しか選択肢はありませんでした」

一方、イメージオプティマイザーは、飲食業界にとっての繁忙期である 12 月までに導入することが急務だった。岩本氏は、「イメージオプティマイザーは、9 月より PoC（概念実証）を開始して、11 月には本番環境にローンチできました。全システムを一気に改修するには、通常であれば 1 年はかかる作業を、検討から移行まで数名のエンジニアだけで簡単に切り替えられたのは、Fastly を採用した大きなメリットの 1 つです。現在は、ほぼすべてのトラフィックを Fastly に切り替えています」と話す。

イメージオプティマイザーの導入では、性能をフルに発揮できる工夫もなされている。岩本氏は、「URL のパラメータに圧縮率や画像サイズなどを付加し、それを読み取ってプログラムで自動変換する仕組みを構築していたのですが、その機能をそのまま移行し、URL 構造を一切変えずに実装できたことが、2 か月という短期間でリリースできた最大の理由でした。また、Fastly のサポートもあり、移行に必要な情報を迅速に提供してもらえたことももう一つの理由だと思います」と話す。

Fastly を導入した効果を岩本氏は、次のように話している。「Fastly の採用で、キャッシュヒット率が 97% 以上で、画像の品質を維持したまま転送量を 40% 削減できたのは本当に驚きました。また動的サイトのキャッシュにより、最大で 20 倍高速なページ表示を実現しています。さらに Terraform や、高圧縮率の次世代の静止画フォーマットである Webp（ウェッピー）を使い、とにかく運用やメンテナンスの環境をシンプルな構成にすることで運用負荷が低減し、コストも大幅に削減でき、また利用者により一層の価値を提供できる業務に集中できるようになりました。イメージオプティマイザーにより、Webp の採用やブラウザにあわせた画像の最適化なども実現できたので、利用者にとってはレスポンスの向上につながっていると思います。」



ぐるなび構成図 / Fastly Image Optimizer

より先進的なテクノロジーを活用で、ぐるなびの価値創出をさらに加速

今後、ぐるなびでは、Fastly をほかのサービスにも横展開していく計画という。新たに展開を計画しているサービスの、動的サイト、静的サイト、および画像変換に Fastly を採用することで、高い圧縮率とパフォーマンス、よりよい運用効率などの効果が期待できる。さらに Next-Gen WAF の導入の検討も開始している。岩本氏は、「Next-Gen WAF の動作環境のヒアリングは終わっているので、どのタイミングで導入するかを検討しています。まずは既存のセキュリティ環境との連携を PoC でしっかりと確認して導入したいと思っています。通常の WAF では、攻撃パターンを一つひとつ手作業で設定することが必要ですが、この部分をマネージドで実現できる Next-Gen WAF に期待しています」と話す。



CTO 岩本 俊明 氏

今後の展望について岩本氏は、「今後、ぐるなびでは、アプリケーション開発も、ビジネス開発も、すべて進化させていくことが必要だと思っています。ぐるなびの利用者には、行きたいお店をより一層見つけやすく、飲食店にはより一層の業務支援を提供していきたいと思っています。利用者にも、飲食店にも満足度の高いサービスを提供するために、バックエンドの仕組みも、より先進的なテクノロジーを活用することで進化させていきたいと思っています。Fastly は、業界でも新しいことに率先して取り組んでいるイメージがあるので、ほかにはない新しいものをどんどんリリースしてもらい、それをうまく取り込んでいきたいと思っています」と話している。

お問い合わせ



✉ japan@fastly.com

🐦 @FastlyJapan

🌐 www.fastly.com/jp

📘 @FastlyEdgeCloudJapan

fastly



ぐるなび

© 2023 Fastly, Inc. All Rights Reserved